

# 茶の湯を通じての日本文化交流会

代表者 岡田 奈央 (経済学部3年)

## 1. 目的と概要

このプロジェクト事業は、私たち石州流茶道部で学んでいる茶道を通じ、留学生に日本文化に親しんでもらうことと同時に、部員と留学生との交流を深めることを目的としています。

具体的な活動内容は、留学生たちに日本特有の衣装である浴衣を着てもらい、お茶席の体験や、自分でお茶を点てる体験をしてもらいました。

## 2. 実施期間 (実施日)

平成25年8月24日、10月19日 平成26年1月29日、2月19日

## 3. 成果の内容及びその分析・評価等

今回のプロジェクトでは、計7名の留学生が参加しました。茶道を見たことがある、体験したことがあるという人はいる一方で、浴衣を着たことがあるという留学生はおらず、非常に楽しんでもらうことができました。



## 4. この事業が本学や地域社会等に与えた影響

香川大学に來ている留学生に、茶道を通して日本文化に触れてもらうことによって、香川県や香川大学のイメージアップにつながったのではないのでしょうか。彼女たちが帰国した後、この体験を後輩に伝えることで、これからの留学生を増やすことへ貢献できるかと思います。

## 5. 自分たちの学生生活に与えた影響や効果等

この活動により、留学生という存在を身近に感じることが出来るようになったと思います。このプロジェクトのきっかけとなったのは、海外研修から帰ってきた部員が留学生との交流の場を設けたい、と思ったからでした。しかし、それは一部のメンバーだけであり、殆どの部員は渡航経験がなく、外国やその地に住む人々を非常に遠い存在だと思っていました。外国人と聞くと言葉が通じるかどうかなどの不安を抱く等、身構えることが多かったのですが、このプロジェクトで日本文化を楽しむ留学生たちを見て、部員の外国人や異文化に対する抵抗が減った、もしくはなくなったように感じました。

## 6. 反省点・今後の抱負（計画）・感想等

留学生の人数が当初予想していたよりも大幅に少なかった点が挙げられます。これは私たちの留学生に対する理解の浅さが現れてしまったように感じます。普段、留学生がどの辺りを行動範囲としていて、どこで情報を得るのかなど、留学生に対する知識や調べが足りなかったと思います。Facebook やポスターによる誘致を行いました、あまり結果には繋がらなかったように思います。

また、留学生の質問に対して知識が足りず、答えきれなかったことや、訛りによる独特なイントネーションが留学生にとっては伝わりづらかったことも反省点として挙げられます。

しかし、アンケートの結果では、「おもしろかった」「嬉しかった」「勉強になった」という声が多く、楽しんでもらえたようでこのプロジェクトを企画してよかったと思いました。

私たち自身も、留学生との交流の中で他国の文化などを知ることができました。特に印象的だったのは、中国のバレンタインデーの話です。中国のバレンタインデーは、男性が女性に花束やチョコレートなどの贈り物をする日であり、義理チョコがないというのも日本とは異なっていました。

今回のプロジェクトでは、留学生に日本文化を体験してもらうだけでなく、交流を通して異文化を知ることもしました。このプロジェクトを通して親しくなった留学生とは、遊びに行く計画を立てるなど、新たな交友関係も生まれました。今後も積極的に留学生を招き入れ、茶道の楽しさを伝えていきたいです。

## 7. 実施メンバー

|     |        |           |        |           |
|-----|--------|-----------|--------|-----------|
| 代表者 | 岡田 奈央  | (経済学部 3年) |        |           |
| 構成員 | 吉川 侑希  | (経済学部 2年) | 六車 光子  | (経済学部 2年) |
|     | 大下 真澄  | (経済学部 2年) | 高山 みなみ | (教育学部 3年) |
|     | 若松 香織  | (法学部 2年)  | 横山 裕子  | (法学部 2年)  |
|     | 小野寺 真友 | (農学部 2年)  | 石崎 成美  | (農学部 2年)  |